



通巻 No.252 2024年11月3日

教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
https://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

- ☐ 「深冷」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- ☐ 「司牧評議会からのお知らせ」
- ☐ その他

「深冷」

主任司祭 パウロ 豊島 治

十一月のご挨拶を申し上げます。

十月も真夏日が続き、今頃になって涼しくなりました。祭服も冬様式になるのは十一月からになりました。

十一月は死者の月です。

第一日曜日には教区が持っている霊園・納骨堂で午後二時からミサがささげられます。

カテドラルでは菊地枢機卿様、府中墓地ではアンドレア司教様、五日市霊園では浦野神父様（事務局長）が主司式ときいています。当該墓地の区画をお持ちの方には追悼ミサの案内が届いているかと思えます。

最近、以前に主任司祭をしていた教会の信徒からの依頼で結婚式の司式をいたしました。挙式場所は偶然ですが私が洗礼を受けた教会です。リハーサルは死者の月。祭壇脇はマリールーゴルドでつまれていました。メキシコの死者の月の習慣だそうですね。死者を偲びそして感謝し、生きる喜びを分かち合うことを目的と記されていました。他に飾られていたのは以下の通りです。

パペルピカド（カラフルな飾り切り紙）
パペルピカドは死者の日を祝う喜びと、紙を巻き上げる風を表しているとのこと。



洗礼堂



祭壇右

カラベリタ（どくろ）

カラベラを模した飾りは祭壇のいたるところに置かれ、多くは着色や装飾された砂糖菓子が使われるそうです。教会の中にはありませんでしたが、カラベラは死の表象であり、「メメント・モリ」の精神を生きる者に思い出させるためだそうです。「メメント・モリ」はラテン語です。「死ぬことを覚えていなさい」という意味が直訳にちかいです。現代では「死を意識することで今を大切に生きることができると」という解釈で用いられることが多いとのこと。

ロウソク
ロウソクの灯は「光」、信仰そして希望を示します。



朗読台

初めてこの光景を見たとき私はこの違和感にびっくりしましたが、若い新郎新婦はディズニー映画「リメンバー・ミー」になじみがあるのだですね。なんなり対応できていました。メキシコで生活している方のウェブページを拝見すると、街中にカラベリタがありました。

死者の月という墓参と追悼という行事のことを私は思い浮かべますが、メキシコからいらした宣教師の説明をうかがって、今をどう生きるかという意識を強く感じました。これから様々なよびかけが私たちにあります。しっかりと受け止めることができますように。

今年の待降節は十二月一日からですよ。よい十一月を過ごせますように。